

視察調査報告書

委員会名	議会運営委員会
参加者	委員長 磯部 亮次 副委員長 加藤 嘉哉 委員 野本 篤 野島さつき 井町 圭孝 野々山雄一郎 小木曾智洋 小田 高之 加藤 学 議長 杉浦 久直
視察日時	令和5年5月16日（火）10：00～11：30
視察先・概要	大阪府松原市 人口：11万6,842人 世帯数：5万8,118世帯 面積：16.66k㎡
視察項目	議会改革（ペーパーレス化の推進）について
視察概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 タブレットの導入時期や機種等 <ol style="list-style-type: none"> (1) 時期：令和3年11月 (2) 機種：iPad Pro12.9インチ 第5世代 セルラーモデル 50ギガ (3) 費用：1台当たり月額 7,480円（レンタル、通信料含む） 2 タブレットの活用事例 <ol style="list-style-type: none"> (1) SideBooks 議案書をはじめ各種資料を共有 (2) LINE WORKS 議員との連絡、スケジュール管理、日程調整等 (3) zoom：議会だより編集委員会や連絡会等をオンラインで実施 3 議員主導により、議案書を含む全ての資料の電子化を実現 <ol style="list-style-type: none"> (1) 完全ペーパーレス化までのスケジュール <ul style="list-style-type: none"> 令和3年9月議会 紙資料による運用 令和3年12月議会 紙資料、データによる平行運用 令和4年3月議会 " 令和4年6月議会 " 令和4年9月議会 データのみで運用（議案書も全て電子化） (2) 効果 <p>紙資料が削減されたこと、各種資料の検索、過去の議案書の閲覧や、電子データの差替えが容易となったこと</p> (3) 課題 <p>事務局では紙資料を一切印刷しないため、必要に応じて議員自身が印刷しないといけないこと。紙資料と比較して電子データのみでは、分厚い議案書、予算書は視認しづらいこと</p> 4 今後の活用について <p>災害時における、LINE WORKSによる安否確認訓練、タブレット端末で写真や動画を撮影しての情報収集訓練、議会災害対応連絡会のオンライン開催などを検討している。</p>

所 感

※視察しての感想
や岡崎市への提
言など

- ・議会改革としてペーパーレス化を推進しており、本市同様、議員1人1台タブレット端末を導入し、議案書や各種資料を共有アプリを利用して運用し、ペーパーレス化に取り組んでいる。3議会にて紙とデータの並行運用を実施した後、令和4年9月議会から完全にデータのみでのペーパーレス化を実施している。議員の中には、紙ベースの資料も欲しいとの声は一定数あるが、議会事務局としてはペーパーレス化を推進するため、紙ベースの資料は一切運用していないとのこと。予算や決算資料については、やはり紙ベースがいいという議員も多く、議員が各自で印刷をしている現状はあるとのこと。ペーパーレス化は重要であるが、資料の内容によっては、紙とデータの並行も必要ではないかと考えさせられる視察であり、本市の今後のペーパーレス化の進め方にも参考となる事例である。
- ・議会のペーパーレス化を強く推進していると感じた。関わる全ての人がデジタル対応に前向きではないと考えるが、それを実行した姿勢には感心をする。紙のよい部分や必要な部分はあると考えている。ペーパーレス化によってどこかの節約ができて、その先のパフォーマンスにおいて印刷することが必要になっていることも事実である。デジタル化やペーパーレス化の推進の波に流され、分かっていなくても分かったふりをしてしまい、本来のパフォーマンスが下がってしまっただけでは本末転倒かもしれない。日々の議会活動において、必要と不必要を見極めることが大切だと感じた。
- ・タブレットの導入に合わせ、順次ペーパーレス化を進め、令和4年9月議会からは、完全にデータのみで運用しているとのこと。議員が必要に応じプリントアウトしているようだが、タブレットのみで対応している人もいるとのこと。議会や委員会の際は、審議しているページがすぐ分かるように、ページ通知機能で、事務局が操作を行っていた。予算や決算の審議では、多くの内容を次々に質疑していくので、大変な労力を要することとなり、職員の負担はいかばかりかと危惧する。本市でもタブレットを導入し、ペーパーレス化も進んできた。資料の電子化等、業務の効率化が進むにつれ、いかに生かしていけるかは議員の力量次第と感じる。
- ・議会にタブレット端末を導入したことをきっかけに、約10か月かけて議会資料のペーパーレス化を実施。ペーパーレス化を実施するという強い信念を持って取り組み、達成したことを感じた。印刷してはいけないというルールはなく、印刷してチェックしている議員もいるとのことだが、議場等へのペーパーの持込みはほとんどなく、多くの議員がタブレットを大いに活用しているとのこと、やり方次第で大きく変わることを実感した。本市は完全ペーパーレス化を目指してはいないが、全てタブレットのデータを活用している議員もいるため、紙の資料が不要な議員への支給をやめるなどペーパー削減に向けた提案をしていきたい。
- ・ペーパーレスを推進する方向性はよいが、各自で紙を併用していく議

	<p>員も多数いるとのこと。市民に理解される議会改革としては、もう少し費用対効果を考えるべきではと少しの疑問は残る。しかし、紙資料からの脱却は必要であるし、議会事務局の仕事がスムーズになった、議員の仕事がやりやすくなったなどの意見が多く聞けるよう前向きに考えていきたい。資料のデジタル化は歓迎するが、その資料を自分のデータにするにはウインドウズが搭載されていたほうが使いやすい。実際、i P a dから資料データを自分のアドレスにメール送信し、自分のパソコンでまとめていることも多々ある。情報収集訓練や災害対応訓練として、あえて各議員が家や住む地域に滞在している状態でタブレットを活用した取組の実践研修を行いたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議会のICT化、DX推進により、タブレットが議員各個人に配付され、主にこれによるペーパーレスへの取組について説明を受けた。タブレット配付から令和3年12月より3定例会において、紙、データによる並行運用を経て、令和4年9月臨時会よりデータのみでの運用となった。大量のページ数がある予算書等をタブレットデータのみで審査、審議することは、困難とまでは言わないが非常に非効率であると個人的には考える。ページの移動やメモの殴り書き等、議員の手間やストレスは紙の方が大きく低減する。タブレット導入によるペーパーレスにとられるより、議員活動の効率化といった部分に目的を見いだしての有効活用が望ましい。本市の予算書の紙ベースでの配付は今後も継続させるべきと考える。 ・完全ペーパーレス化移行について参考になる視察であった。本市に置いても、慎重な検討を引き続き進めていく必要があると認識した。
<p>委員長の総括</p>	<p>議会のタブレット導入に伴い、完全ペーパーレス化を図る取組である。タブレット導入の意義には様々な効力が挙げられるが、最もありがたいのは、情報共有の効率化であると思う。</p> <p>また、ペーパーレスについては、不必要な二度と顧みることのない資料はデジタル情報だけで十分であるが、議案等の資料には、何度も繰り返し読み込む必要のあるものもあり、一様にペーパーレスにすることが適しているとは言いづらい。現に、松原市でも事務局が印刷しないだけで、議員が自ら印刷している資料もあるとのこと。単純に、作業と予算の川下への先送りでしかない。資料のペーパーレスについては、じっくり時間をかけて、要・不要を確認していくことも肝要と思われる。</p> <p>他市を視察し、本市の議会改革の現状を顧みることができ、大変よい機会になった。</p>